

SGH 通信

高知県立高知西高等学校
グローバル探究Ⅱ（2年）の取組
令和2年2月12日 火

第 10 回 グローバル探究Ⅱ「リサーチ結果分析」

8月30日のグローバル探究Ⅱでは、各グループが夏休みに行ってきたリサーチの結果の共有や、分析を行いました。また、次週の大学の先生方への相談会に向けて、質問を考えました。



第 11 回 グローバル探究Ⅱ「探究相談会」

9月6日のグローバル探究Ⅱでは、農学分野の先生を中心に、世界の環境、教育、国際支援の研究をされている大学の先生方8名に、グループの探究における困りごとや疑問や探究の方向性などを相談しました。先生方の専門分野に対して希望を募り、1班20分以内で44グループが質問をしていました。

○参加いただいた先生方

高知学園短期大学 参与 近森憲助先生

高知大学 教育学部 森田美佐先生 人文社会科学部 岩佐和幸先生

農林海洋科部 永田信治先生 松川和嗣先生 小野寺健一先生 阪田光和先生

国際連携推進センター 新納宏先生



- ・原因が解決不可能な事柄の場合、どういう方向で解決策を提案していけばよいですか。
- ・南アジアの国にも導入できそうな日本のゴミ処理システムはありますか。

第 15 回 グローバル探究Ⅱ「中間発表会」

10月18日のグローバル探究Ⅱでは、現在までの探究活動の進捗状況の報告を、中間発表会という形で、パワーポイントを使用し、口頭発表しました。第一回目の発表会に参加していただいた大学の先生に加え、新たに3名の先生も加わり、アドバイスをいただきました。

○参加いただいた先生方

高知工科大学 経済・マネジメント学群 中村直人先生 上條良夫先生

高知大学 農林海洋科学部 市栄智明先生 長崎慶三先生 教育学部 森田美佐先生 佐竹泰和先生

人文社会学部 岩佐和幸先生 地域協働学部 石筒寛先生

各グループは、この日のために、色や文字の大きさ、探究した内容のまとめ方などを工夫し、スライドと発表原稿を直前まで手直ししながら準備をしていました。



今回の私たちの発表を通して、参考になっている文献などが圧倒的に少ないということに気づきました。私たち自身の考えや考察ばかりを大切にせず、外部の情報をあまり取り入れられてなかったと思います。なので、これからもっと論文などを読み知識を深めていきたいと思います。また、私たちの定義した「数学ができる」という状態が本当にそれで良いのか考え直したいと思いました。

第 2 5 回 グローバル探究Ⅱ「ポスター交流」

1月24日のグローバル探究Ⅱでは、

他の探究からたくさんの知識を得ると同時に、自分たちの探究と比較することで自分たちの探究の意義を理解する目的で、2年生の全70グループがポスターセッションを行いました。6, 7限で35グループずつに分かれ、発表10分と質疑応答までを1人で行い、276人が発表しました。また、時間内で、他班7テーマを聴講しました。



【発表後の生徒の感想】

- ポスターセッションの発表はとても楽しかったです。去年は班員全員での発表でしたが今年は一人での発表でとても不安でしたが、4月からしっかり探究してきたので聞いてくれている人たちにたくさん情報を提示できたと思います。また、たくさんの方がしっかりと聞いてくれたので質疑応答もたくさんきました。やはり、きかれたものを瞬時に答えるのは難しかったけど落ち着いて整理したらしっかりと答えられたので相手の方も納得してくれました。
- 他の班では、自分たちの班が課題としている教育問題を取り上げている班があったけど、着目点や解決策が私たちと全然違うことがわかりました。例えば、私たちは子供の就学率を上げることを考えていたけど、他の班では大人の教育に注目していたことから、新しい解決策を知りました。また、現状をSNSやポスターなどで広めてたくさんの人に知ってもらい、支援をするという解決策もありました。これらを取り入れるとより良い解決策が出来上がると思いました。

1月31日のグローバル探究Ⅱでは、1年間の探究活動を各グループで振り返り、活動記録を作成しました。
1年間の探究活動を通して、各班それぞれに学んだことがたくさんありました。下は活動録の一例です。

ミシシippアカミミガメから見る外来種

研究内容の要約

現在、日本各地で外来生物により生態系がゆがめられている。経済がグローバル化するにつれて生物がその生息域の外に持ち出される機会が増加している。よって私たちは外来種をミシシippアカミミガメに絞って外来種被害を減らす方法を考察した。

① 探究活動で苦労したこと、活動を通じて学んだこと

授業中だけでは終わりきらず、放課後もしなければいけなかったのですが、それぞれの予定がなかなか合わず作業の進行が遅くなり、締切ギリギリまでやったことがとても苦労しました。1週間毎日警備巡回の放送が鳴るまで作業をしていた時もあり大変でしたが、最後にはしっかりとした内容で完成させることができ、良かったです。また、スマホアプリを活用して家でも文章を作れるようにしたことが良かったと思います。様々なものを活用して、班のメンバーで協力しながら完成させることができ、頑張ったかいがあったと思います。

② これをやっておけばよかったこと

授業中にやることをあらかじめしっかり決めておいてスムーズに作業ができるようにしておけば良かったと思います。また、作業の分担をして、効率良く作業を進められれば良かったと思います。自分は人に任せるより自分でやった方が早い気がして、ついつい自分の許容範囲を超えたことをしてしまっていたので、もっと班のメンバーに頼ることも必要だったと感じます。

③ 参加した活動内容と、そこからどんなことを学んだか

文章作りや、パワーポイント作成、情報収集などたくさんのことを行いました。文章作りのためにとても国語力が必要となったため、日頃の現代文の授業は大切だなと強く感じました。また、パワーポイントを作る際には見やすさや色の使い方が大事なので文章をまとめることの難しさや色の合わせ方の難しさを学びました。情報収集では、調べたいことがなかなか出てこず、大変だったので調べる際の単語の重要性を学びました。

④ 探究活動を通じて、どのような手法や考え方が身に付いたか、また今後どのような場面で使えるか

身近なアプリを活用すれば授業中や放課後だけでなく家でも作業ができたので、そういったものをうまく活用していくということが身に付きました。また、人から情報を得ることや困った時に頼ってみることはとても重要な考え方であると思いました。調べて文章にまとめることがとても大変だったので、自分の文章力で足りないところを誰かに補ってもらい、そういった助け合いや協力は大切であると改めて感じさせられました。

⑤ 探究活動の結果、新たに生まれた疑問や興味

調べた時に、ミシシippアカミミガメについての情報がとても少なかったなのでその情報を増やし、ミシシippアカミミガメの問題についての解決策のアイデアを増やしていくためミシシippアカミミガメの認知度を上げたい、と思ったのですが、その方法についてもっと考えていきたいと興味を持ちました。